

平成29年度 U25 Young Officials Camp 2017 参加報告書

1. 日程：平成29年8月11日（金・祝）～13日（日）
2. 場所：上尾スポーツセンター／上尾運動公園総合体育館
3. 主催：公益財団法人 日本バスケットボール協会
4. 講師：宇田川貴生氏、平育雄氏、吉田正治氏、上田篤拓氏、平原勇次氏、山崎人志氏、加藤誉樹氏、安西郷史氏、佐藤誠氏、須黒祥子氏、前田喜庸氏、小澤勤氏、増渕泰久氏
5. 受講生：各ブロック推薦者30名（男性21名、女性9名、平均年齢23.2歳）
6. スケジュール・研修内容

○8月11日（金） 1日目

時間	研修名及び講師
13:05～13:20	開講式 挨拶（公益財団法人 日本バスケットボール協会 審判委員長 阿部哲也氏）
13:20～15:00	講義① 「FIBA 新レギュレーション」「3PO メカニクス」（上田篤拓氏）
15:30～16:30	フロアトレーニング 3POの動き（トスアップ、リードなど）
19:00～20:50	講義② 「ガイドライン」（宇田川貴生氏）

研修内容

まず初めに、上田氏より「FIBA 新レギュレーション」に関するお話をして頂きました。国際審判員になるために必要な条件（ライセンス、人格、体づくり、英語力等）を示していただき、具体的な目標設定をする必要があるということと、同時に今からできることを少しずつ取り組むべきだと感じました。

続けて、上田氏より本研修のメインである「3PO メカニクス」について講義して頂きました。3POはLead refereeがイニシアチブ（権利）を強く持っているため、ローテーションがスムーズであることが重要であること、また、審判としての存在感や信頼感を表すためにゲーム中に声を使うことが勧められていることを学びました。本研修の実技では、①OBVIOUS（明らか）なものに関しては積極的に笛を鳴らしていくこと、②コート上で積極的に声を使うことを大きな課題として挙げて頂きました。

フロアトレーニングではトスアップからの位置取りの実践を行い、続いてショートゲームを吹かせて頂きました。ファウルをとりあげた際とTOレポートは大きな声を使い、尚且つ全て英語でコールすることを条件におこないました。日本語でコールすることに慣れてしまっていたということもあり、声が小さくなってしまったり、言葉が出てこなかったりと、苦戦をしたのと同時に、私自身の英語力のなさを実感いたしました。

講義②では、宇田川氏から「ガイドライン」の正しい理解について講義して頂きました。初めにガイドラインの意義について説明いただき、次にガイドライン内の悪い手・腕・肘の整理に関して、【ファウルの3原則】触れ合いの事実、責任（リーガルガーディングポジション、シリンダー等）、影響を考慮すること、影響に関しては『RSBQ』（Rhythm, Speed, Balance, Quickness）の4つの観点から判定し、『何が』『どのようにして』ファウルだったのかを説明ができるようにすることで、クリーンでスムーズなゲームを提供することが可能になることを教えて頂きました。

○8月12日(土) 2日目

時間	研修名及び講師
8:45～9:15	講義③ 「女性審判員向けオリエンテーション」 (須黒祥子氏)
9:30～17:15	3PO実技①:4人ローテーション
19:00～19:40	講義④ 「プレゼンテーション」「3×3レフェリーについて」(加藤誉樹氏)
19:40～20:40	映像研修 (上田篤拓氏)
20:40～20:55	閉講式

研修内容

講義③では須黒氏より女性審判員についての講義をしていただきました。NBAの女性レフリーである Lauren Holtkamp さんや Violet Palmer さんの話を踏まえながら、女性審判員にはメリット(女性らしさ、気づかい等)、デメリット(弱さ、優しさ、下手にみられる等)があり、特にデメリットについては知る必要があることを教えていただきました。今後の課題としては『自立心を強く持つ』(周りに答えを委ねず、自分で何とかする)、『コート内外での立ち振る舞い』(見せ方、トレーニング等)の2点を理解することが大切であることを学びました。

講義④では加藤氏よりプレゼンテーションについての講義をしていただきました。プレゼンテーションで大切なことは①Signals(シグナル) ②In charge(責任、担当) ③Verbal support(声、言葉) ④Strong body(体の大きさ)の4観点からなり、その中でもアイコンタクトやジェスチャーなどが高い信頼度を得るということを教えていただきました。また、上級審判員、国際審判員になるためには英語力が必要であることから、この講義内で、2人1組で1分間ずつ英語のみで会話をしました。ちゃんとした文法ではなく、伝えたいことを単語で『伝える』ということが大切であることを学び、同時に英語の勉強も進めていく必要があると痛感いたしました。

映像研修では上田氏より講義をしていただきました。トップリーグレフェリーの映像や、B.LEAGUEファイナルのゲームを使いながら映像研修の方法を説明していただき、当日の実技のビデオを使って映像解析の方法を教えていただきました。ただ映像を見るだけでなく、巻き戻しと再生を繰り返して、何かが起きた時に前のプレイに戻ってそこから対策を考えていき、把握や確認をおこなっていくことを積み重ねていくことが大切であることを学びました。

<実技①>

担当試合: 1) 12:30～ (男子) 都立足立 — 朝霞 (1Q:U2、2Q:U1)
2) 13:15～ (男子) 都立駒場 — 朝霞 (3Q:R)
3) 15:30～ (男子) 朝霞 — 大宮東 (1Q:U2、2Q:U1)
4) 16:15～ (男子) 所沢西 — 春日部 (3Q:R)

相手審判: 1) 1Q R 坂 高志(福島) U1 大井 陽平(埼玉)
2Q R 大井 陽平(埼玉) U2 阿部 ちひろ(岩手)
2) 3Q U1 阿部 ちひろ(岩手) U2 坂 高志(佐賀)
3) 1Q R 青柳 龍之介(徳島) U1 阿部 ちひろ(岩手)
2Q R 阿部 ちひろ(岩手) U2 土谷 峰到(徳島)
4) 3Q U1 土谷 峰到(徳島) U2 青柳 龍之介(佐賀)

担当講師: 小澤 勤氏

- 講評:
- ・リードの際、イニシアチブをもっと持ち、躊躇せずに積極的に動く。
 - ・リードがスイッチサイドをするのと同時にトレイルはセンターへと移動する。
 - ・ローテーションは正確かつ確実にすることを常に心がける。
 - ・プレゼンテーションの面で、ファウルを取り上げた後すぐに次の再開方法を示すことで試合の進行がスムーズになり、ベンチや観客からも分かりやすく感じさせることができる。

○8月13日(日) 3日目

時間	研修名及び講師
9:30～17:30	3PO実技②：4人ローテーション(12:30頃一旦解散)

<実技②>

- 担当試合： 1) 9:30～ (男子) 所沢西 — 春日部 (1Q：R、3Q：U2)
2) 10:15～ (男子) 都立足立 — 朝霞 (3Q：U1)
3) 12:30～ (男子) 大宮東 — 小山台 (1Q：U1、2Q：R)
4) 13:15～ (男子) 松山 — 都立駒場 (4Q：U2)

- 相手審判： 1) 1Q U1 土谷 峰到(福島) U2 青柳 龍之介(佐賀)
2) 3Q R 青柳 龍之介(佐賀) U1 大井 陽平(埼玉)
4Q R 大井 陽平(埼玉) U2 土谷 峰到(徳島)
3) 1Q R 大井 陽平(埼玉) U2 遠山 大輔(長野)
2Q U1 遠山 大輔(長野) U2 坂 高志(福島)
4) 4Q R 坂 高志(福島) U1 大井 陽平(埼玉)

担当講師： 増淵 泰久氏

- 講評： ・トレイルの際のアングルの取り方の工夫(エリア3の1on1を見るときの位置取り、体の向きの工夫をする)。
・センターではできる限りコートの中に位置をとる。
・時限の終わりを宣する時、オポジットサイドのレフェリーが確認できない時の協力を図ること。(アイコンタクト、ボディランゲージ)

7. U25 Young Officials Camp 2017に参加して

3日間を通して、全国の若手審判員とともに本研修に参加し、沢山の講師の方々のお話をお伺いすることができ、大変貴重な経験をさせていただくことができました。3POに関することも深く理解することができ、プレゼンテーションの大切さや信頼性の大きさもあらためて実感させていただきました。また本研修で初めて導入されました「女性審判員について」の講習を受け、女性としてどうあるべきか、今何をすべきかが明確になりました。これから更に女性審判員としての自覚を持ちつつ心と体を磨いていきたいと思っております。この3日間で得たことをまたさらに自分の中で研究を重ねていながら、東京都や連盟に還元していきます。

最後に、今回の研修に対してご尽力いただきました日本バスケットボール協会阿部部長をはじめ、講師の先生方、JBA オフィスの方々、推薦していただいた東京都の久保ブロック長に厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

以上